

日頃からの備えを確認しよう！

8月以降は、秋雨前線や台風が発生しやすいため、気象警報の発令が多くなります(図1)。そのため、大雨や暴風など気象災害や、それに伴う停電や断水への警戒が必要です。

いざという時のために、平常時からの備えと天候悪化時の対応を確認しておきましょう。

なお、天候が悪化してからの外作業は危険です。事前の準備を行い、その後は、天候が落ち着いてから対応し、事故がないようにしましょう。

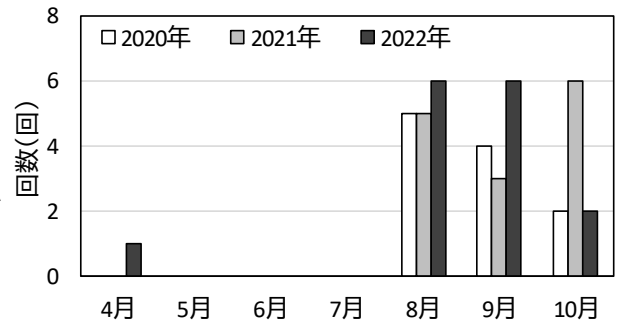


図1 宗谷管内の気象警報発令状況(4~10月)
 (特別警報・警報・注意報データベースより)

1 平常時からの備え

- ラップサイレーシなどの飼料は滞水の恐れのない場所に保管する。
- 畜舎や付帯施設を点検のうえ、強風等による倒壊、破損がないよう補修する。また、整理整頓を行い、つまずきなどの事故予防につとめる。
- 停電に備え、懐中電灯の電池残量、工具の配置、自家発電機の燃料や動作の確認を行う。自家発電機がない場合は、停電時の自家発電機の手配について確認を行う。
- 断水に備え、給水タンク等の準備、または使用方法の確認を行う。

2 天候悪化(大雨、暴風)の予報が出た時の対応

- スコップや一輪車など、風で飛ばされそうなものは屋内に移動する。
- 水に濡れて発熱する生石灰や、漏電の危険がある電源コードなどは、屋内に移動する。
- ハッチなど風であおられそうなものは、重しをするなどの対策を行う。
- シャッターや扉は、雨の吹き込みや風であおられないように閉めておく。
- 放牧牛は牛舎に収容する。やむを得ず放牧する場合は、氾濫する危険がある河川周辺の放牧地は避け、なるべく目の届く放牧地を使用する。

3 天候が落ち着いてからの対応

- 畜舎や牛の状態、ほ場(草地・飼料用とうもろこし)、貯蔵飼料に異常がないかの点検、確認を行う。異常があった場合は、状況に応じた対策を講じる。
- 停電が発生していた場合は、通電後、ミルクカー・バルクなどの作動の点検、確認を行う。
- 断水の復旧後は、使用する前に水に濁りがないかを確認する。

災害発生時の対応は、当センターHPに掲載しています。
 HPは「[宗谷農業改良普及センター 災害時など緊急対策情報](#)」で検索
 または、右のQRコードからアクセスできます。



災害対策情報はこちら